

第2回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果  
大橋川周辺地域のまちづくりに対する想い・意見  
「意見一覧」

■第2回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果②【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

意見ID	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
A-1	A 松江の風情	大谷	近世の歴史を感じさせるたずまい	それは位置的なものとして意識したものではなくて、松江らしさとは何かというイメージで書いたものです。あまり古代の意味ではなくて、城下町のいわゆる江戸期以降ぐらいの佇まいみたいなものを彷彿させるような松江らしさがあるんじゃないかなということを書きました。	上流	城下町の歴史を感じさせる佇まいを大切に。		
A-2	A 松江の風情	泉	・江戸時代以降の歴史・文化の維持		上流	城のまわりを中心に、江戸時代以降の歴史・文化を維持する。		資料4 (1)
A-3	A 松江の風情	岸井	城下町の地図と重ねて、都市の全体像を理解して取り組もう		上流	城下町の地図と重ねて、都市の全体像を理解して取り組もう。		資料4 (2)
A-4	A 松江の風情	岸井	城との関係を意識できるように		上流	城との関係を意識できるように。		資料4 (1) (2)
A-5	A 松江の風情	林	松江開府400年の歴史を残すべきである		上流 (大橋周辺)	松江開府400年の歴史を持つまちを残すべき。		
A-6	A 松江の風情	林  林	松江夜曲の面影を残してほしい  大橋川の風情を大切に	松江夜曲というのは、最近ほとんど歌われませんが、大変有名な方の作詩作曲で、「松江大橋唐金擬宝珠、なぜに忘れぬ、忘れぬ、桜、春雨、相合い傘で、君と眺めた嫁が島・・・」という、大変良い歌なんです。この唐金擬宝珠といったような、現在の松江のまちの風情を残してほしいなと思います。  (どんなときに風情を感じるかという問いに対して) 晴れても雨でも全てですね。これはもうラフカディオ・ハーンという言葉にも、霧に煙る松江大橋は感動的なものだという言葉がありましたね。だから、松江大橋は源助さんという人柱まで埋めて作った橋なんですけども、その歴史を大事に残さないと。松江の宝だと思いますよ。 (松江らしさをまちづくりとか河川整備にどう活かすかという問いに対して) とても難しいことですね。というコメントに対して) ですから、あるものをいかに守るかということだと思います。	上流 (大橋周辺)	松江夜曲に歌われるような大橋界隈の面影と風情を残してほしい。		資料4 (4)
A-7	A 松江の風情	皆美	松江大橋は現状のままであってほしい	今日頂いた景観専門委員会の報告で、松江大橋を中心とした北側の歴史・伝統を感じさせる区域という報告がありますね。観光的にも、松江の生活からも、松江大橋というのはへそみたいなものでして、その存在は非常に大きいと思います。ですから、できれば現状のままであってほしいというふうな、個人的な思いなんです。	上流 (大橋)	松江大橋の存在は非常に大きく、できれば現状のままであってほしい。		資料4 (3)
A-8	A 松江の風情	大谷	松江大橋は大事にしたい	松江らしさとはどんなものなのかなということ、やはり大橋は松江の象徴的な橋であるかなというふうに思いますので、その佇まいといいますか、それはやっぱり何らかの形で大事にしなければならないのかなというふうに思います。	上流 (大橋)	大橋は松江の象徴的な橋であるので、大事にしなければならぬ。		資料4 (3)
A-9	A 松江の風情	林	松江大橋(現在の)の歴史を残すこと(はりまや橋の事例)	(どんなときに風情を感じるかという問いに対して) 晴れても雨でも全てですね。これはもうラフカディオ・ハーンという言葉にも、霧に煙る松江大橋は感動的なものだという言葉がありましたね。だから、松江大橋は源助さんという人柱まで埋めて作った橋なんですけども、その歴史を大事に残さないと。松江の宝だと思いますよ。例えば高知のはりまや橋なんて何も無いですけど、名前だけで全国から人が行くんですよ。行ってがっかりしますけどね。松江大橋の景観というのは有名で、大事なものではないでしょうか。	上流 (大橋)	現在の大橋は松江の宝であり、残すべきである。		資料4 (3)
A-10	A 松江の風情	木幡	現状をできるだけいじらない		上流	上流左岸の雰囲気できるだけ残す。		
B-1	B 歴史・文化・風土・生活	有光	生活と水のかかわりの保全(多様な)		全体	生活と水の多様な関わりの保全。		

■第2回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果②【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

意見ID	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
B-2	B 歴史・文化・風土・生活	布野	治水対策の上、1945年前後の姿に戻す（古事記の時代とは言わないが）	私が書いたのは、基本的にわがままでして、簡単に言うと、すべての川との関係を大体1945年前後に戻せというのがトータルな意見なんです。もちろん断面を確保した上でということですけども、わがままでというのは、私の子供の頃、大体日本の市街地景観は、東京でもある程度江戸からの近世に連続する景観を持っていたと思います。「古事記の世界に戻せとまでは」とも書いたのですが、せめて50年ぐらい前の原点に戻って、どうせお金をかけていただけるなら戻してほしいというのが乱暴ですが私の意見です。	全体	治水対策を行った上で、川との関係を1945年前後の姿に戻す。		
B-3	B 歴史・文化・風土・生活	有光	産業と神事の近い関係の保全	農業や漁業や、そうしたベースがあって、やっぱり神事や祭りがあると思うんですけども、島根の場合そうしたもののつながりが随分保全されていると思うんですね。そういうものがつながっているということが魅力の一番だと思います。	全体	農業・漁業など生活と神事とのつながりが魅力であり、その関係を保全してほしい。		
B-4	B 歴史・文化・風土・生活	岸井	神社・仏閣はできるだけ存続 周囲の風土と一体		全体	周囲の風土と一体化している神社・仏閣を、できるだけ存続する。		資料4 (10)
B-5	B 歴史・文化・風土・生活	有光	神社と水面の関係	いくつも神社があると思うんですが、大体かつては水に接してあったらろうなど。須衛都久神社は今、少し改善されたけれども、やっぱり道路に隔てられていますし、また賣布神社のところも、前は隣に川が流れておりました、後ろは水面だったんじゃないかと思うんですけども、やっぱりそういう水と神社の関係というのは、ずっと今まで住民が感じ続けてきたことの集積だと思うんです。	全体	須衛都久神社や賣布神社のように、かつて水に接していたところが、今は水から隔てられている。水と神社の関係を大切にしてほしい。		
B-6	B 歴史・文化・風土・生活	飯野	歴史・文化に関する学習の場		全体	歴史・文化に関する学習の場とする。		
B-7	B 歴史・文化・風土・生活	有光	風土・生活・信仰に触れる旅		全体	生活者だけでなく来訪者にも風土・生活・信仰などが感じられるような地域であることが求められる。		
B-8	B 歴史・文化・風土・生活	有光	舟運再生		全体	舟運の再生。		
B-9	B 歴史・文化・風土・生活	有光	ホーランエンヤ		全体	地域の文化としてのホーランエンヤを大切に。		資料4 (7)
B-10	B 歴史・文化・風土・生活	布野	如泥石と云われる波消し石のような伝統護岸	これは時間があれば話題にしようと思って書いたんですが、小林如泥という不昧公に取り入ったというか、長野から来た大工さんなんですけど、この人が何でも屋さんで、天神川の天神様があるあたりに如泥堤という、白のような、テトラポットみたいなものを護岸にして、洪水を防いだという記録があるんです。お分かりになれる方がいらっしゃれば、それがどういうものなのか教えてもらいたいんですが。そして、それが使えるかどうかはわかりませんが、デザインボキャブラリーとしてそういう伝統的な工法、例えば信玄堤じゃないですけど、そういうものも含めたデザインとかというのも考えられるかなと思って書きました。	全体	如泥石をはじめ、伝統的な護岸工法を再現できないか。		資料4 (8)
B-11	B 歴史・文化・風土・生活	岸井	樹は切らない	先ほどの話と絡むのですが、もし本気でやりますと、何百年に1回の大改造だと思うんですね。それをやはり地域の活性化につなげなければいけない。ただ単に危険度が下がったというのではいけない。そうすると、この地域は出雲から松江、そして米子までで考えるべきじゃないかと思えます。そのときに、ここのポイントは、ある意味では非常に、言い方は悪いですが売りになると思えます。そこに祭られているものを大切にするという我々の意識というのは、何か物が一つあれば良いんじゃないかと、そこにある空間そのものを大切にしようという意識が必要で、そうである以上、あまりそここのところについては無茶なことはしないということです。	下流	宍道湖から中海までを一体的に考えたとき、下流部の緑は大切なポイントであり、その空間を大切にするという意識を持つべき。		

■第2回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果②【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

意見ID	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
B-12	B 歴史・文化・風土・生活	有光	舟倉・造船所		下流	水辺に関わる産業としての舟倉や造船所があることが記憶として残るよう。		
C-1	C 自然・環境	泉	・人工物を出来るだけ排除する方向で環境との調和		全体	人工物をできるだけ排除し、環境との調和を図る。		
C-2	C 自然・環境	有光	水質向上		全体	水質の向上。		
C-3	C 自然・環境	有光	生態系保全（微生物-植生、魚-鳥など）		全体 (特に中流)	生態系の保全（特に中流）。		
C-4	C 自然・環境	飯野	環境学習都市松江を目指す		全体	自然環境が残っている地域を学習の場として活用を図る。		
C-5	C 自然・環境	木村	湿地の維持・保全	私は中州を保全するという立場で「湿地の維持・保全」と書いたんですけども、そちらはかなり広大な面積があつて、しかも地域の湿地として何か生態系とかが非常に貴重だというふうに聞いておりますので、残していく方向が良いんじゃないかと思って書かせて頂きました。	中流 (中州)	中州は貴重な湿地であり、維持・保全すべき。		
C-6	C 自然・環境	木村	中州のビオトープ機能の向上		中流 (中州)	中州のビオトープ機能の向上。		
C-7	C 自然・環境	飯野	植物・生物に関する学習の場		中流 (中州)	中州を植物・生物に関する学習の場として活用する。		
C-8	C 自然・環境	門脇	中の島の残地活用として、自然観察スポットとして環境教育に役立てる		中流 (中の島)	中の島を、自然観察スポットとして整備し、環境教育に役立てる。		
C-9	C 自然・環境	木幡	現状をできるだけいじらない		中流 (中の島)	中の島の癒しの環境の保全。		
C-10	C 自然・環境	飯野	鳥類に関する学習の場	私は仕事柄教師なものですから、どうしても全体を通じて教育の場としてこの地域を位置付けたいというふうになっていて、特に河口のところは以前船で下りたときに、非常に多くの鳥類、水鳥がいました。ところが、残念ながらそれをきちんと説明できる人もいないし、それに関する情報の提供もされていません。ですので、やはり川と親しむということも大事なんですけど、ここを全体として自然に関するいろんな学習の場として位置付けるとおもしろいかなと思って、下流のところには貼らせて頂きました。	下流 (河口から中海湖岸周辺)	多くの鳥類がいる河口付近を、自然に関する様々な学習の場として位置付けるとおもしろい。		
D-1	D 景観・眺望	岸井	広さ、ゆったりとした風景が必要		全体	広さ、ゆったりとした風景が必要。		
D-2	D 景観・眺望	泉	・恵まれた自然景観		全体	恵まれた自然景観を残すことが大切。		
D-3	D 景観・眺望	島田	大山隠岐国立公園を意識した景観づくり		全体	大山隠岐国立公園を意識し、大山までを含めた景観づくりが必要。		
D-4	D 景観・眺望	景観委 景観委	朝霧に浮かぶシジミ舟 遠くに見える大山		全体	常に見られる固定的な景観だけでなく、「朝霧に浮かぶシジミ舟」「遠くに見える大山」などの季節的なものも含め、時折見られる風景への評価も必要。		

■第2回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果②【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

意見ID	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
D-5	D 景観・眺望	岸井 岸井	船を 街を 眺める 対岸の見え方を意識するマナーが必要	松江の魅力の一つが水であるとおっしゃっていたんですが、私は、今の風景が必ずしも完全に良いものだという感じでは思っておらず、もうちょっとよくなるのではないかと考えています。そのためには、お互いに見える、見せるという意識を持ち合うことが非常に大事で、船からもほかの人に見て頂く、そして我々も船を見る、そういうことを意識的に思っ頂方が良いかなと思います。お互いに見ることによって、そこにある風土というのか、別の紙にも書きましたけど、対岸を何か意識した、そういうマナーがないといけないのではないのでしょうか。それがないと、風情が伝わらないというふうに思っています。	全体	相手（船や対岸）を見る・相手から見られるという意識を持ち合うことが、風景をもっと良くするためには必要。		
D-6	D 景観・眺望	布野	舟からの景観による景観規制		全体	船からの景観による景観規制。		
D-7	D 景観・眺望	岸井	この際、川沿いからなくしたいものを消す		全体	この際、川沿いからなくしたいものを消す。		
D-8	D 景観・眺望	桑子	付箋なし	私の意見ですけれども、松江へ参りまして、やはり水が非常に近いと感じました。しかも水面だけではなくて、やっぱり松江をつくっている非常に重要な要素として水際のことがあると思うんですね。陸地と水の境目ですね。ここに何といいますか、風情というのがあるんじゃないかと思うんです。それをコンクリートで断ち切ってしまうと、風情のない空間になってしまうということで、水という言葉でもいろんな切り口があって、どういふふうに見るかということも大事なポイントではないかというふうに思います。	全体	松江は水際に風情があるので、そこをコンクリートで断ち切ると風情のない空間になってしまう。		
D-9	D 景観・眺望	布野	ホーランエンヤは永遠に（12年に1度）	ホーランエンヤというのは、12年に一度あるわけですね。出雲の時を刻む、非常に12年という、一生のうちにそう何度も見れませんけれども、時を刻む一つの行事ですし、大橋川を一体化する景を持っていますので、それを楽しめる護岸といいますか、川の景観であってほしいと、そういうふうに思います。	全体	ホーランエンヤは大橋川を一体化する伝統行事であり、このホーランエンヤを楽しめるような河岸と景観であってほしい。		資料4（7）
D-10	D 景観・眺望	木幡	川沿いの景観を大切に		上流	川沿いの景観を大切にする。		
D-11	D 景観・眺望	泉	治水計画を推進する前提条件として、街全体の景観に配慮が必要	直接治水計画のことでありませんが、治水計画をいろいろとする上で、もう少しまち全体の景観に配慮した方が良くないかということをお願いしたいのです。というのは、今、なし崩し的に、やや金太郎飴的なまちになりつつあると思っていますので、松江らしさが失われているという意味でもっとほかにもやることかあるんじゃないかということを書きました。	上流	治水計画を推進する前提として、街全体の景観に配慮することが必要ではないか。		
D-12	D 景観・眺望	泉 泉	なしくずし的な乱開発に規制を、地区毎の用途別建物規制を ゾーニングの手法、2005年6月より施行された【景観法】による生活環境の保存、眺望権、日照権を保持できる条例の制定	今おっしゃったような水辺というのは、親水性と同時に、眺望とか、遠くから眺めても良いという感じがなくてはならないと思います。最近川岸に高い建物がどんどん建っておりますので法か何かで少し規制を加えないと眺望も阻害するし、周囲の山並みも陰になると思います。そのあたりになし崩し的に放っておいて、川だけの景観を言っても問題にならないという気がします。そのあたりの前提をもう少し整理しながら、同時に大橋川の周辺の景観も含めたものを考えていかないと、全体の景観を建物で壊しておいて、そのあと大橋川をどのようにしようかというようなことはナンセンスだという感じがしているんです。そういう意味で、私はここに貼っていないんですけれども、水辺の空間、親水性と同時に眺望とか、そういうことに対する意見を言っておきます。	上流	親水性と同時に眺望も含めた大橋川周辺の景観に関して、もっと景観法などの法的規制をかけて保全すべきでないか。		資料4（12）
D-13	D 景観・眺望	景観委	ラフカディオハーンの見た風景		上流	ラフカディオハーンの見た風景という視点での景観づくり。		資料4（5）

■第2回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果②【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

意見ID	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
D-14	D 景観・眺望	木村	川岸から2ブロック下がっても水辺が見えるように		上流	河岸から2ブロック下がっても水辺が見えるように。		
D-15	D 景観・眺望	太田	県都としての風格と、観光地としての景観評価が高まるような橋・堤防・道路の形状が重要		上流	観光地としての評価が高まるような橋、堤防、道路の景観づくりが重要。		
D-16	D 景観・眺望	布野	濠（堀川）と一体の護岸デザイン		上流	濠（堀川）と一体の護岸デザイン。		
D-17	D 景観・眺望	太田	大橋の形状・デザイン、橋の中央部分の幅を広くして歩道を広めにとる	松江大橋、新大橋が架け替えになるという前提で書きました。やはり松江の中心市街地を川で南北を分けておいて、その中の松江大橋なわけで、今の状態で維持されるなら、それが一番良いと思いますけれども、川幅が広がるということで架け替えなければならないということになりますと、南北のまちが遠くなるような格好では困りますので、私の考えとしては、歩道を広げて橋の幅を広くして、橋の中央部分、真ん中の方でもちょっと歩道を広目にとったような格好で、何か特徴ある橋を架けるようなことができないかなと。	上流 (大橋)	大橋は、歩道を広くすることによって橋の幅を広げ、橋の中央部では更に広い歩道とするような、特徴ある橋にできないか。		
D-18	D 景観・眺望	木村	新大橋のデザインの見直し	松江大橋の伝統的なデザインからいうと、新大橋の方はちょっと味気ないように思いますので、もしも架け替えがあるならば、少し松江に合ったデザインを考える必要があるというふうに思っています。	上流 (新大橋)	新大橋は、松江に合ったデザインを考える必要がある。		
D-19	D 景観・眺望	有光	中州の水郷風景保全		中流 (中州)	中州の水郷風景の保全。		
D-20	D 景観・眺望	飯野	風土記に思いを馳せる景観の保持		下流	風土記に思いを馳せる景観の保持。		資料4（9）
D-21	D 景観・眺望	景観委	矢田の渡し 出雲国風土記		下流	矢田の渡し 出雲国風土記。		資料4（9）
D-22	D 景観・眺望	有光	赤瓦集落	左岸の方に赤瓦の集落がありまして、全部移転なんていうことになったら残念だなと思うんですけど。やっぱり城下町とはまた違う景観だと思います。	下流 (左岸)	赤瓦の集落が移転で無くなるのは残念。		
E-1	E 水辺・水面・親水性	大谷	水辺の美しさ		全体	水辺の美しさを大事にする。		
E-2	E 水辺・水面・親水性	大谷	水辺の近さ		全体	水辺の近さを大事にする。		
E-3	E 水辺・水面・親水性	木村	目線と水面高が近い点		全体	目線と水面高が近い点。		
E-4	E 水辺・水面・親水性	木村	街と水辺の一体感		全体	街と水辺の一体感。		
E-5	E 水辺・水面・親水性	有光	水面との近い関係を保持		全体	水面との近い関係を保持する。		
E-6	E 水辺・水面・親水性	宇田	耐水性と親水性を上手に調和させた街づくり		全体	耐水性と親水性を上手に調和させた街づくり。		
E-7	E 水辺・水面・親水性	有光	柵・手摺に頼らない安全	今の護岸には柵が無いところがたくさんありますけれども、万一落ちてでも死なないような断面だからだと思うんですね。だから、そういうことや、自然な形で安全を保持する。手すりとか固いもので隔ててしまうのではない形のものにしたいと思います。	全体	柵・手摺に頼らず、自然な形で河岸の安全を保持する。		

■第2回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果②【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

意見ID	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
E-8	E 水辺・水面・親水性	有光	ゆるやかな斜面		全体	河岸はできる限りゆるやかでやわらかい形としたい。		
E-9	E 水辺・水面・親水性	布野	ある時は 右→左、ある時は左→右、この不思議な大橋川	最初の委員会的时候にも申し上げたんですが、潮が上がってくれば逆流する川というのはたくさんあるんでしょうけれども、こういう勾配差が無い川で、ある日は右側に、あるときは左側という流れ方をしていることが、本当に子供のころ不思議に思っていたんです。そういうものを眺める場所とか、そういうものは大事にしたいというふうに思います。	全体	ある時は右に、ある時は左に流れる不思議な川の特性を大事にしたい。		
E-10	E 水辺・水面・親水性	有光	灯籠流し	水があっちに流れたりこっちに流れたりするという事にも関係していると思いますが、灯籠が一気に流れてしまうのではなくて、あっちへゆらゆらこっちへゆらゆらしているから良いんだと思います。それからお盆の宗教行事としても、この前の夏もやっておられましたので、本当に生活に根付いているなと思います。	上流	灯籠流しに代表されるような、生活・信仰と水・川との密接な関係を断ち切らないでほしい。		資料4（6）
E-11	E 水辺・水面・親水性	岸井	寺町と水辺の関係を密にしたい		上流（右岸）	寺町と水辺の関係を密にしたい。		
E-12	E 水辺・水面・親水性	木村	河岸に2車線以上の道路がないこと（守るべき点）		上流	河岸は人優先の道路とすべき。		
F-1	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	岸井	水辺をできるだけ歩ける空間にする		全体	水辺をできるだけ歩ける空間にする。		
F-2	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	飯野	リバーウォークができる歩道づくり	外国をふらふらと歩いていますと、やはり川べりというのは基本的に歩く人が最優先なんですね。やはり車はそこから一段下がるとかというふうな形で造られています、やはり川べりというのは歩くというのが基本的な一番の要素かなと。それが川に親しむ人たちの生活を一番象徴しているのかなと思って、リバーウォークという言い方で書きました。	全体	リバーウォークができる歩道づくり。		
F-3	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	飯野	住民が水と親しむ憩いの場		全体	住民が水と親しむ憩いの場の整備。		
F-4	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	木村	水辺のイベントスペース、野外ステージなどのにぎわい空間	若者が集まる場が少ないと思います。水辺は魅力的なんですけれども、近くに寄っていきこうという気になかなかない。若者が寄ってくれば賑わえるなどということで、格好の空間ができてくるんじゃないかという気がします。	上流	若者が集う水辺のイベントスペース、野外ステージなどのにぎわい空間の整備。		
F-5	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	木幡 木幡	木が少ない もっと緑を 公園が庭園みたい、松にこだわらないこと、憩いの場に	護岸とは限りませんが、松江のまち全体として、まちの中に意外と緑が少なく、また、松江の公園も松の木ばかりなので、いわゆる木陰ができないため憩いの場所になっていないと思います。カップルが歩こうにも、周りからみんな素通しになってしまうし、松江の公園は、公園というよりは、何か庭園というような趣の公園が多く、それは、島根県の県木がクロマツだからかなと思っていたら、松以外の木を植えると葉っぱが落ちて掃除が大変なので、市役所があまりほかの落葉樹を植えたがらないということのようだという話を聞いたことがあります。本当かどうかはわかりませんが、やっぱりもうちょっと木陰で憩える場所を、これから高齢化社会ですから、例えば老夫婦が木陰のベンチでゆっくり時間を過ごせるような公園を造ってほしい。別に直接水とは関係ありませんが、景観の一つだと思って書きました。松がいけないと言っているんじゃないですよ。松ばかりでは困るということです。	上流	まちの中に緑が少なく、また、庭園のような公園が多いので、松にこだわらず、木陰で憩える場を作ってほしい。		
F-6	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	有光	舟溜り整備	幾つか船溜りがありますけれども、割とそばに普通の人が寄れないような感じになっていて、もっと観光客やいろんな人が漁業やプレジャーボートのそばに寄れて交流ができるような形になれば良いなと思います。	上流	人々がふれ合えるような舟溜りの整備。		

■第2回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果②【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

意見ID	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
F-7	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	岸井	橋詰めに広場が重要	松江にとって水辺、橋は大変重要ですが、やはり市民の方たちが水辺をちゃんと眺められて、そこに集えるような、そういう広場というのは本来必要だと思います。いろんな意味でそういった場は使われていまして、また、昔はそもそも橋詰めに広場があったわけですから、今回しっかり造った方が良いと思います。	上流 (大橋、新大橋 橋詰め)	橋詰め広場の整備。		
F-8	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	門脇	改修を契機に、松江の伝統産業であるお茶・菓子店と、神社・仏閣等、松江らしさを出したまちづくり	ちょっと乱暴な意見ですが、さっきもお話があったように、大橋と新大橋が仮に架け替えになるという前提で考えると、例えば大橋の南でしたら、多分合銀の本店ぐらゐまでは擦り付けがくることになって、そうなったときには、もう白濁本町、和多見は移転というふうなことも考えられるのではと思います。しかし、あそこは神社仏閣が多くあるわけですね。そうしたときに、それらを中心としたならば、松江らしさを引き出すということで、やはり特にお茶とお菓子の松江ですから、お菓子屋さん、或いはお茶屋さんをそこに集積し、さっき太田委員もおっしゃったような、市民の皆さんや観光客が回遊できるような格好にするというふうなことで、大橋と新大橋付近は今、ご無礼ですが、もう死にまちになっていまして、もうちょっと人通りを多くするために、ちょっと冒険ですが、そういうふうなことをやってみたらどうだろうかという意味でございます。	上流 (大橋・新大橋 周辺)	改修を契機に、神社・仏閣の多い場所に伝統産業であるお茶・お菓子屋を集積し、大橋から新大橋付近を観光客や市民が回遊できるようにして、活性化を図りたい。		
F-9	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	木村	遊歩道（橋の下をくぐる）がほしい		上流 (大橋・新大橋)	橋の下をくぐる遊歩道がほしい。		
F-10	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	太田	大橋・新大橋を回遊できる歩道を設置	大橋から新大橋までをずっと遊歩道でつないで回遊できるような、そういうような親水の面も併せて、観光の面と、そして住民の皆さん方もまた楽しめる、そういう環境づくりが必要じゃないかという具合に思っております。	上流 (大橋・新大橋 間)	大橋～新大橋間に、人々が水に親しめる回遊歩道を整備。		
F-11	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	景観委	ヤナギ並木		上流 (大橋～新大橋 間左岸)	アンケートでヤナギ並木は好きな場所として上がっている。		
F-12	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	木村	くにびき大橋から中州に下りる道路		上流 (くにびき大橋 ～中の島)	くにびき大橋から中の島に下りられる道路の整備。		
F-13	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	太田	川沿いには遊歩道（ジョギング道路）		中流 (中州)	中州の川沿いにジョギングができるような遊歩道を整備。		
F-14	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	木村	サイクリングロードなどの市街地にない魅力の創出	大橋川の中・下流域なんですけど、この間、現地視察で見せて頂きまして、非常に景観的に美しいんですけども、市内に住んでいるとほとんど行く機会が無いので、行ってみたいと思わせるような細工が何か必要じゃないかというふうに思いました。市街地の近くであれば遊歩道などがありますが、そのあたりの地域などであればやはりサイクリングロードが適当ではないかということで提案させて頂きました。	中流・下流 (左岸)	美しい景観を気軽に楽しめるサイクリングロードの整備。		
G-1	G 川で楽しむ	布野 布野	泳ぎたい かつてのように 釣りたい かつてのように		全体	かつてのように泳ぎたい、釣りをしたい。		
G-2	G 川で楽しむ	有光	カヌー・レガッタ・ボート		全体	カヌー・レガッタ・ボートが楽しめる川。		
G-3	G 川で楽しむ	布野	ボート部の練習が見たい		全体	ボート部の練習が見たい。		
G-4	G 川で楽しむ	太田	水上スポーツなどが楽しめる		中流	水上スポーツなどが楽しめるよう整備する。（剣先川）		



■第2回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果②【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

意見ID	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
H-1	H 治水	有光	浸水の可能性を前提としたまちづくりの研究	住宅の設計をしておりますと、前の水害のときにはここまで水が来たから、大事なものはもうちょっと上にといったように、もう水に浸ることを許容している方もおられます。そういう建て方もあるのではないかと私は思っておりますので、絶対水に浸らないようにつくることが前提ではないのではないかと思います。浸っても良い商売の仕方もあるだろうし、そういう建物もあるだろうし、そういうことも含めて広く研究した方が良いのではないかなと思います。	全体	浸水を許容できるまちづくりの方法を研究してはどうか。		
H-2	H 治水	泉	治水の工法としては鴨川のように洪水時だけ流れる低地帯を造ることで、大橋川の生態系が維持できるのではないかと考える	治水計画について言えば、今、大橋が架かっているあたりの川幅は昔からその幅だったと思うんですが、それを補完する意味で、天神川はもう少し幅が広がったと思うんです。そして、天神川から賣布神社のところにクリークが通っていました。したがって、それが大橋川の川幅の狭さを補完していたんじゃないかと思うんです。クリークは今もう埋まってしまっておりますから仕方がないんですが、それで、どういうふうを広げられるのかわかりませんが、大橋の場所を今のところの計画で南側を30m近く川幅を広げられるのでしょうか。この間、鴨川に視察に行ったときに、その場合は、川の中に小さな堤防みたいなもの造っていました。したがって、全体の川幅を広くするんじゃないかと、洪水時には全幅の水が流れるんだけど、ふだんは狭い川幅なんだという格好にしたらどうかという気がするんですよ。したがって、今、源助地藏さんのあるところ、庄助という飲み屋さんがおられるあその一角を島みたいな形で残す方法はないのかなと思います。そして、もう少し南側に、さっき言ったような洪水時だけに流れる低地帯をつくって、洪水時には流したら良いんじゃないかと思うんです。と言いますのは、それはいろいろな工法があると思いますが、一遍に大橋川全体の川幅を広げてしまうと、いわゆる生態系に多少影響が出てくるんじゃないかなと感じがしております。それで、先ほど有光委員もおっしゃっていましたが、灯籠流しのときに、その灯籠が、東へ行ったり西へ行ったりするというので、昔から大橋は、「今日は下げちょうかや、込んじょうかや」という言葉があるんです。「込んじょう」というのは逆流しているということで、「下げちょう」というのは東の方へ流れているということで、そういうふうにしよっちゅう流れが変わるんですよ。そうした中で生態系が維持できているとき、川幅を一様に広げてしまうと案外流れが一時的になるんじゃないかなと思うんです。まあこれは素人考えですが、したがって、私が言いたいのは、川幅は普段の流量のときは今の川幅で、洪水時にはもう少し低い部分で流す方法はないのかなということなんです。例えば鴨川では下に堤防がございますね。ああいう形で、それこそ水面にかなり近い高さのところをずっと帯みたいにして流す方法はないかなということで提案してみました。ただし、これは素人考えですからよくわかりませんが。	上流	治水の工法としては鴨川のように洪水時だけ流れる低地帯を造ることで、大橋川の生態系が維持できるのではないか。		
H-3	H 治水	岸井	中州をできるだけ治水に役立てる		中流(中州)	中州をできるだけ治水に役立てる。		
H-4	H 治水	有光	中州は遊水池としての機能保全		中流(中州)	中州は遊水池としての機能を保全。		
I-1	I まちづくりと市民意識	後藤	治水やそれに伴う様々な議論をふまえ、それに関わる事だけでなく、このまち全体がどうあるべきかを考える機会になれば良い		全体	治水事業を契機に、松江の魅力を高めるためにこのまち全体がどうあるべきか市民全体で考える機会になればよい。		
I-2	I まちづくりと市民意識	後藤	必ずしも市民全体が宍道湖・大橋川周辺の景観を重要視しているとはかぎらないと思う。今回の課題をチャンスととらえ、市民意識の向上につなげることが大切		全体	必ずしも市民全体が宍道湖・大橋川周辺の景観を重要視しているとはかぎらないと思う。今回の課題を市民意識の向上につなげることが大切。		

■第2回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果②【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

意見ID	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
I-3	I まちづくりと市民意識	後藤 後藤	我々が真にほこれるまちにするために！宍道湖や大橋川をどのように利用するのか 引き継いできた文化や景観だけでなく、今生きる人々の作り上げるものも重要		全体	宍道湖や大橋川の整備では、市民の意見を反映させ本当に利用されるものを作ることが重要。		
J-1	J めざすべきまちのイメージ	岸井	中海とのつながりを意識できるように一体の空間として扱う	地域的に見ると、出雲から松江から米子までが一体となって戦うべきだと思っております。それをつないでいるのが大橋川ですから。それを意識しないとダメだと思います。	全体	大橋川を、出雲から米子までのつながりを意識できるように一体の空間として扱う。		
J-2	J めざすべきまちのイメージ	宇田	国際文化観光都市にふさわしい特性と安らぎを備えた街づくり		全体	国際文化観光都市にふさわしい特性と安らぎを備えた街づくり。		資料4 (11)
J-3	J めざすべきまちのイメージ	島田	日本一きれいな水の都とする		全体	日本一きれいな水の都とする。		
J-4	J めざすべきまちのイメージ	島田	世界大会・全国大会の開催地として海、川の利用を考える		全体	水上スポーツの世界大会、全国大会が開催できるようにし、観光と結びつけて地域活性化を図る。		
J-5	J めざすべきまちのイメージ	岸井	街区単位で考えたい		上流	街区単位で考えたい。		
J-6	J めざすべきまちのイメージ	飯野	公共交通優先のまち	移動手段の問題は、やっぱりどこか考えておく必要があるのかなというふうに思っていて、水のまちですので水上を使うということも当然あるんですが、やはり先ほど回遊性ということなんかを考えますと、このまちというのは、できるだけ自動車交通を排除するというような方向性を持っていくことが長い目で見たときには必要なかなと思っています。もともと城下町というのは、車の移動というのは不便にできているわけですね。それがまた城下町の魅力でもあるわけですから、そういったものを活かしていくためには、公共交通というものをつくっていくということが重要なかなということを思っています。	上流	城下町の魅力を活かす上でも、自動車交通を排除し、公共交通優先のまちづくりを行うことが重要。		
K-1	K 地域コミュニティ	太田	生活基盤の維持	その地区は、集団的に移転が必要な地区になるんですね。それで農家ですから、それで集落をどこへどう移転するかということの中で、生活基盤のことを十分に配慮してあげなければならないと思っていて、そこに書いてみたところです。	下流 (左岸)	集団移転が必要な地区では、生活基盤の維持に配慮が必要。		